

奈良県指定文化財調査票

調査日	2020 年	8 月	9 日	記入者	石井 宏子
調査者名	明槻	石井	久門	橋詰	

文化財名	文殊院東古墳				
種類	<input checked="" type="checkbox"/> 史跡	<input type="checkbox"/> 名勝	<input type="checkbox"/> 天然記念物	<input type="checkbox"/> 有形民俗文化財	<input type="checkbox"/> その他 ( )
指定年月日	1974年(昭和49)3月26日				
所在地	桜井市阿部645番地				
所有者 管理者	文殊院				
員数					
時代区分	7世紀前半				
樹木の場合	(樹木名)			(樹齢)	
案内板の状況	あり。				
公開	見学自由(石室内には入ることはできない)				
保存状態	<input type="checkbox"/> 非常に良い	<input checked="" type="checkbox"/> 良い	<input type="checkbox"/> 普通	<input type="checkbox"/> 悪い	<input type="checkbox"/> 非常に悪い
	補足 ( )				
当面の課題	文殊院所有で、安倍文殊院境内地にあり、よく管理されている。				
今後の課題	墳丘は後世の改変があったと言われ、開口部の外壁には木の根によるとも言われる割れも見られるが、近年発生したものではないと思われる。 西古墳の説明板に国指定特別史跡と書かれているのと同じように県指定史跡との明記が望ましい。				
その他 (由緒など)	南南西に開口した両袖式横穴式石室を持つ古墳。改変で墳形は不明。(方墳?円墳?) 玄室部は自然石、羨道部は一部に切石の花崗岩が使われている。「実隆公記」によると室町時代には既に開口していた。羨道部に井戸があることから閼伽井窟と呼ばれ、古くから信仰の対象になり、井戸の水は閼伽水(知恵の水)と呼ばれ、20年ほど前までは法要にも使用されていたとのことだった。				
コメント	安倍文殊院は新しい石灯笼や案内板や建造物など、近年、境内の整備が進んでいるように思われた。境内も綺麗に保たれている。ただ、文化財としての案内板とすれば、少し物足りなさを感じた。古墳の入口上部の傷みや、元は古墳の排水溝をヒントに井戸にしたという説もある井戸の水枯れなどには、改めて長い歴史を感じた。Wikipediaなどによると、阿部丘陵周辺には、阿倍(安倍)氏との関係性が指摘される多くの巨石墳や建物跡も多く、文殊院境内には、他にも同様の石室古墳が存在した可能性が示唆されるとかで、ますます興味が湧く地域だと感じた。				

奈良県指定文化財調査票(写真)

調査日	2020年	8月	9日	記入者	石井 宏子
調査者名	明槻	石井	久門	橋詰	

文化財名	文殊院東古墳
------	--------

開口部から



正面開口部の説明板



羨道から玄室方向(羨道に井戸)



開口部の巨石



西よりから



不動堂前に立てられている『奥の院案内図』

